

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	グリーン自然科学国際教育研究プログラム	申請大学名	名古屋大学
申請大学長名	濱口 道成		
プログラム責任者	山本 一良		

1. 進捗状況概要

- ・理学、工学、農学の研究領域が共同するという計画を着実に実施するために、理学と農学の研究科長が平成 24 年 4 月から交代することを踏まえた役割分担全体の見直しを行い、12 回の実行委員会を開催した。
- ・俯瞰力、展開力、国際性、リーダーシップの四つの資質を高めるために、学生を切磋琢磨させるという計画が予定通り実施されており、学生の意欲も感じられる。
- ・国際性の獲得に向けた取組を充実させるべきであるというプログラム委員会からのコメントに対応して、英語研修や海外留学を積極的に行うことを決定し、グローバルリーダー英語研修として異文化の理解や国際的マネジメント能力養成の内容を盛り込んだことは期待できる。
- ・横断的教育を目指す 4 つの融合学理プラットフォームの設置が完了し、セミナーやワークショップが着実に実施されている。
- ・学生にとって魅力ある研究環境を整えるために、大型共通機器として多くの学生が使用すると考えられる X 線構造解析システムの導入を決定したことは評価できるが、仕様作成に時間を要したため経費を次年度に繰り越すことになったことは残念である。
- ・学生への経済的支援として計画していた T A 及び奨励金制度の実施を見送ったが、プログラムに参加する博士前期課程学生 41 名、博士後期課程学生 9 名を R A として採用したことは評価できる。
- ・優秀な学生を国内外から確保するために、キックオフミーティングを昨年 12 月に開催し、700 人の参加者を得ている。また本プログラムの広報を目的とした和文と英文のパンフレットを作成しており、今後の活用が期待される。

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）

- ・目的を達成するためには実施計画の一部変更も必要な場合があるが、当初に計画した外部評価委員会の設置を行わず、運営委員会が主体となって自己評価を行うという変更は外部に開かれた本プログラムの趣旨とは異なるため、当初の計画通り外部評価委員会を設置すべきである。
- ・博士課程在学中あるいは後においても、優秀な学生に広く門戸を開く本プログラムにおいて、入試による上位 20% の学生から選抜を行うことについて、異分野からの学生の学力を序列化できるか不明確であるというプログラム委員会の疑問に対し、入試だけでなく、博士前期課程における学業成績や研究成果を加味して総合的に評価するよう変更したことは、前進と考えられる。
- ・5 年間の大学院教育をより充実させるために、本プログラムにおける融合学理プログラムの所属専攻以外で開講される「開放科目」に学部講義を取り入れたことは評価できる。